

淀川のイタセンパラ

稚魚、今春確認できず

魚 成 殖 繁
流 放 500匹

近畿地方整備局は13日、

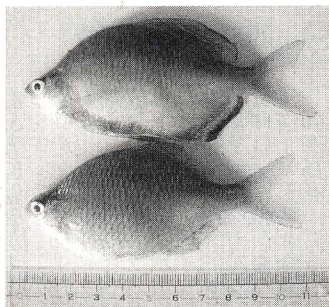
国の天然記念物に指定されている淡水魚「イタセンパラ」について、昨春生息が確認された府内の淀川を今春調査したところ、稚魚を確認できなかったとして、繁殖させた成魚500匹を

放流したと発表した。

イタセンパラは日本の固有種。生息環境の悪化やブルーギルなどの外来種が増えた影響で、稚魚の数は2001年の7839匹をピークに年々減少。06年から4年間は姿を確認できず、09年秋、今回同様1500匹の成魚を放流した。昨春は133匹の稚魚の生息が確認されていた。

イタセンパラの寿命は約1年で、台風などで川が増水し、産卵場所となる二枚貝類が流出したことなどが要因で、繁殖や成長ができ

なかったと考えられるとい



淀川に放流されたイタセンパラの成魚―近畿地方整備局提供

う。同局や研究者らでつくる「淀川イタセンパラ検討会」の小川力也座長は「今回は流出しにくい場所に放流した」と話している。